バラエティ豊かなラインナップ
チョコエッグ
本物のおいしさ
セコイヤチョコレート
フルタ製菓株式会社
〒544-0023 大阪市生野区林寺6-7-22

菓子・食品・パン関連資材専門紙　流通記者会加盟紙
令和7年　1月2日（木曜日）
（毎月12、22日発行）第2332号　増刊
昭和41年7月2日第3種郵便物認可

菓業食品新聞
The Journal of confectionery

URL：https://okashi.info　e-mail：ks-news@okashi.info

発行所　〒564-0053 大阪府吹田市江の木町 11-38-618
TEL 06(6385)1717 FAX06(6385)0150
株式会社 菓業食品新聞社
支社・京都
発行人　狩野　智子　　一カ年　8,800円

社説

万博、菓子博が同時開催
日本の菓子PRの絶好のチャンス

いよいよ4月13日から大阪・関西万博が開催される。前回、大阪で万博があったのは55年も前のこと。日本初の国際博覧会で、当時の記憶のある人のほとんどがシニア世代となる。世界77カ国が参加し、総来場者数6400万人の大盛況だった。関西万博では161カ国が参加、来場者目標は2820万人としている。前売券に関し、販売目標1400万枚に対し12月上旬時点で742万枚、53%しか売れておらず、そのうち680万枚が企業のまとめ買いという厳しい展開である。総工費の値上がりなどマイナスな情報が流れ、売れ行きが懸念されるが、万博による経済効果や日本文化のアピールといったメリットに期待する人は少なくないはずだ。菓子業界からの参画も予定されており、日本の菓子の魅力を発信するまたとないチャンスである。最後までトラブルなく無事に進んでほしい。

全国菓子大博覧会が8年ぶりに北海道旭川で5月31日より17日間開催される。日程も規模もコンパクトな形での初開催となる。都心からは遠方への移動を伴うが、北海道は良き原料の一大産地であり、お菓子の世界を存分に楽しめる場として、ぜひとも成功してほしい。また、博覧会開催にあたり尽力されている実行委員会の皆様にエールを贈りたい。

大手製薬メーカー
衛生管理不備で事件に

安全安心が問われる近年、食品では衛生上の厳しい制度が義務づけられている。にもかかわらず昨春、大手製薬メーカーのある成分を謳うサプリメントによる大事件が起きた。摂取後の健康被害の訴えが相次ぎ複数の死亡例も報告された。同成分は菓子原料にも広く使われるため、問い合わせが殺到し菓子業界にもきつい波風となった。調査の結果、工場の衛生管理に問題があったことによる可能性が高く、その成分自体に問題がないと報じられた。第一報の公表が遅すぎたこともありメーカーへの不信感が強まり大幅減益となっている。衛生管理を怠ると命取りになることを思い知らされる出来事だった。

乙巳歳（きのとみどし）
菓匠館 福壽堂秀信
＝初春のよろこび
嘉祥菓にこめる＝干支菓子　福壽の巳
（上段）（左）福壽の巳 親（薯蕷）、（右）福壽の巳 親（桃山）
（下段左）　福壽の巳 子（薯蕷）　白、紅
（下段右）　迎春干菓子（讃岐和三盆）

ドーナツ店増加
海外からも進出

このところ、ドーナツ店が急増している。1970年代にダンキンドーナツ、ミスタードーナツがオープンした1次ブームに始まり、03年にポン・デ・リング、06年にクリスピー・クリーム・ドーナツ、13年にクロワッサンドーナツとブームが起こった。22年に福岡発のアイムドーナツでとろける食感の生ドーナツが大流行、その後アメリカ、韓国発のドーナツ店が続々と店舗数を伸ばしている。ダンキンドーナツは98年に撤退、ミスドは店舗数が落ち込んでいたが、コロナ禍でテイクアウト需要に乗れたこと、ドーナツ店が増えたことでV字回復となった。流行り廃りを経ながらも根強いおやつカテゴリーとして、ドーナツ市場は成長していきそうだ。

新年おめでとうございます。昨年1月1日の能登半島地震において被災された方々に心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興を祈念致します。弊紙は広告主様、購読者様の皆様のお支えの下、無事に新年を迎えられました。厚く御礼申し上げます。本年も一同、より一層元気で励んでまいりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

新春特集号
30面 京都生菓子 林理事長に訊く
26面 木ノ下氏 厚労省 現代の名工
23面 フルタ クリスマスセール
16面 SuCオークワ知多店